

46 華道家・新井リカ（2021年4月8日）

日本で華道（草月流）の師範となられた新井リカさんは、2006年からフランスで生け花を教えたり、和食レストランなどで定期的に活け込みをされています。フランスに来る前にロンドンで生活していたときに、現地で生け花のデモンストレーションをお手伝いされたことがあり、たとえ言葉が通じなくても、美しいお花を通じてコミュニケーションをとれることに感動して、お花を通じた国際交流に貢献したいとの思いを持たれたそうです。これまでに、アルジェリア、サウジアラビア、スーダンなど、いくつもの国で生け花のデモンストレーションを行った経験をお持ちです。



生け花は、日本の伝統文化の一つとしてフランスでも知られています。フランスと日本で生け花の教え方に違いがあるかお尋ねすると、フランス人のお弟子さんの作品の手直しをするときには、日本人のお弟子さんに教えるときと比べて、その理由をきちんと説明する必要があると教えてくださいました。フランスでは、この10年で生け花でよく使う花材はほとんど入手できるようになり、生け花をやりやすくなりました。その一方で、ヨーロッパスタイルのフラワーアレンジメントで生け花でよく使われる花材を使うと、和風に見える作品もあります。生け花とフラワーアレンジメントの垣根がなくなりつつあり、今後は、「生け花とは何か」という明確な説明が必要になると新井さんはおっしゃいます。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



新井さんは、緊張しながらお花を扱うとお花も緊張して早く枯れてしまうので、生け花をするときは力まないようにしているそうです。季節感を大切にして、生け花を飾る場所の雰囲気や目的も考えて花を活着ていらっしゃいます。一つ一つのお花と対話しながら花を届けられるので、新井さんの作品はお花が生き生きとしています。これからも新井さんの作品を通して、生け花の魅力が多くのフランス人に伝わることを期待しています。